

植物生育調節剤開発の 新しい発展への期待

日本植物調節剤研究協会が設立されてから莫大な数の薬剤や生活性物質が供試され、多数の有効除草剤が開発されて農業の近代化に貢献した。しかし、除草剤以外の植物生育調節剤については、果樹作等を除いては、緒についたとはいえない難しい実績である。

協会設立のときの趣旨の一つは、毒性や分解性の点からして生物に由来する生活性物質から安全性の高い有効な剤を開発することに対する期待であった。最近では、新しい生活性物質およびその作用性に関しても知見や情報がふえつつあるし、タチガレンのように多面的な効果を見出す剤も実用化するにいたっている。筆者らの関係している荳科植物の種子から抽出、分離されたエチレン生成阻害蛋白は研究途中ではあるが、今後さらに新しい形の生活性物質の創出の可能性を期待させるものである。

このような新物質に関しては、協会が積極的に仲立ちとなって、官側と民間側との情報の交流をはかり、創出に対し努力することが望ましい。また、有望活性物質の作用性、同定、合成等に関しては、生物系ことに作物の研究者と薬学、生化学方面の研究者との間の協力にまつべきものが大きいから、官側、民間側および民間側相互間の情報の交流と研究協力を促進することを協会に望みたい。さらに病菌も高等植物も生育調節という面での関連が考えられ、また物理的ストレスがエチレンの生成促進を通じて生育を調節している例も発見されているから、他の関係機関との情報の流通、協力も心がけるべきではないか。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事 馬場 赴〕

目 次 (第12巻第3号)

水田における稲わら施用と水稻作用 除草剤……………	2
＜全農肥料農薬部 上島俊治＞	
1. はじめに……………	2
2. 稲わら施用と水稻栽培上の効 果と問題点……………	2
3. 地域別稲わら施用基準の概要……………	4
4. これらの基準と現状の問題点……………	4
5. 稲わら施用と除草剤の薬害……………	5
6. おわりに……………	5
転作畑と大豆作……………	6
＜農事試験場畑作部 中山兼徳＞	
1. 転作畑の特徴と問題点……………	6
2. 大豆作とその問題点……………	8
水田転換畑における大豆栽培と雑草 防除……………	11
＜埼玉県農業試験場 長谷川英世＞	
1. はじめに……………	11
2. 転換畑の土地基盤……………	11
3. 転換畑の雑草生態……………	14
4. 雑草が大豆作に及ぼす影響……………	15
5. 雑草防除……………	16
6. おわりに……………	18
外国文献抄録……………	18
＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞	
植調協会だより……………	20